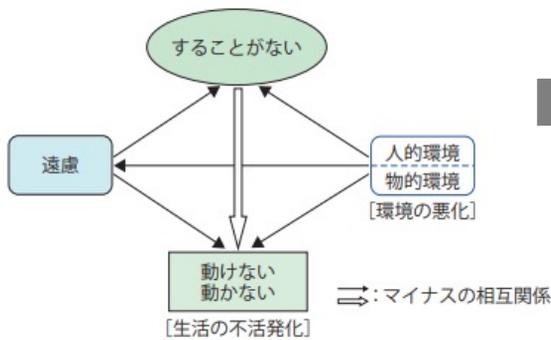


生活不活発病と災害関連死

1. 生活不活発病とは



生活不活発病とは地震などの災害を契機として生じる廃用症候群



▶ 特定の症候である筋力低下・拘縮のみでなく、心身機能全般が低下する状態をさす。

図3 災害時に「生活の不活発化」を生む原因とそれらの相互関係⁵⁾

大川 弥生:災害時に多発する「生活不活発病」: その予防と回復における内科医の役割. 日本内科学会雑誌. 2017;106(4):857-864

先行文献では・・・

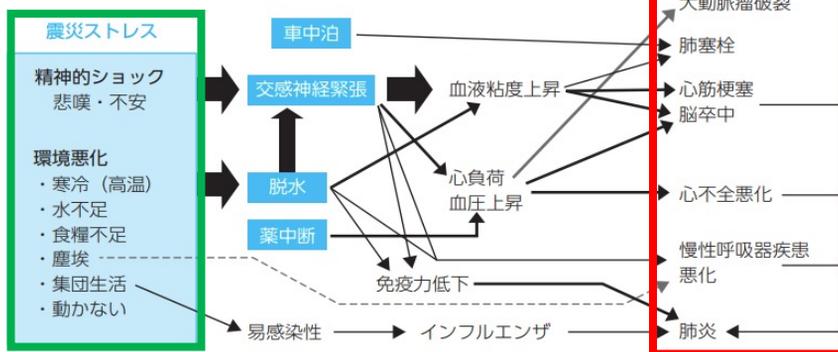
▶ 非要介護認定高齢者1,626人の**30.5%**に地震後、歩行困難などの生活機能低下が出現し、6ヶ月後にもその3分の1強（全体の11.0%）が回復していなかった。

大川 弥生:災害時に多発する「生活不活発病」: その予防と回復における内科医の役割. 日本内科学会雑誌. 2017;106(4):857-864

▶ 避難所人口当たりの**深部静脈血栓症 (DVT) 有病率は1.68~2.82%**と、日本人の有病率の**200倍**にも達していた

植田 信策:避難所生活や車中避難生活における高齢者のDVTの発症予防と早期発見. Geriatric Medicine. 2020;58:843

2. 災害関連死とは



上田耕蔵:「災害関連死」を防ぐために看護職が知っておきたいこと. Community Care. 2017;19(13):006-015

災害によるストレスが要因となり生活不活発病・災害関連疾患を発症する。

大規模災害時には災害による直接被害だけでなく、様々なストレスや避難生活により、**災害関連死**が増加することとなる。

3. 理学療法士ができること

リハ関連職種は被災地でも **活動性低下による廃用（生活不活発病）の予防** に務める責務がある。

▶ 支援としては、転倒予防、安全な移動、保温、歯磨きの援助、家族状況や人間関係の把握と調整、運動支援、避難所から病院や施設へ移動、社会福祉施設との連携が挙げられる。

酒井 明子:東日本大震災急性期における高齢者の健康問題が及ぼす影響と看護. Geriatric Medicine. 2012;50(3):309-312

住民・多職種と一緒に、対策を講じる必要がある



熊本地震での島根JRATの活動風景